北海道の地域と学校の連携・協働を応援する広報誌

地学協働

12

2023年９月

Hokkaido community and school collaboration

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課

バックナンバーはこちらから御覧いただけます。

1 第１回北海道地学協働活動推進会議

令和５年７月28日（金）に**「第１回北海道地学協働活動推進会議」**をオンラインで実施しました。

本会議は、幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支え、**「学校を核とした地域づくり」を目指す**ことと、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う**「地学協働活動」の充実を図る**ための方策について検討し地方創生の推進を図ることを目的としたものです。

当日は、道内各圏域から構成員８名と北海道地学協働アドバイザー４名、関係部局として保健福祉部子ども政策局子ども政策企画課から２名が出席し、協議を行いました。

まずはじめに、道教委における地学協働活動の状況として、「北海道CLASSプロジェクトのこれまでの成果と課題」、「北海道地学協働アワード2023」、「全道地学協働研究大会」等、各種事業について、社会教育課から説明を行いました。その後、２つのグループに分かれ、「地域における地学協働体制を構築するための方策」について協議を行い、下記の課題について、その解決に向けた方向性を話し合いました。

＜構成員から出された地域における地学協働活動の課題＞

○地域の各校に地域コーディネーターが配置されるようになってきたが、活動内容が多様で負担が大きい
○地域コーディネーター向けの研修会を市独自で行っているが、まだ地域と学校が一体となった取組につながっていない
○地域によっては、学校に地域住民が参画した活動が難しいなど、地学協働に対する理解に差がある
○学校職員は異動が多いので、地域にどのような人がいるのか把握しづらい
○小・中学校では、ＰＴＡなどが関わることで地学協働活動を活性化させやすいが、高校は広域であるため、地域住民同士がつながりにくい

＜解決に向けた方向性＞

○道教委が地域コーディネーターの育成に関わる研修を行い、スキルアップを図るとともに、地域コーディネーター間のつながりをつくることが重要
○コミュニティ・スクールを推進するためには、地域住民が当事者意識を持って取り組むことが大切
○地域は、高校だけでなく、小・中学校にも「地域創生」の視点を持って関わることが重要

→次回の会議では、「北海道地学協働アワード2023」の１次審査を行う予定です。

＜地学協働TOPICS＞

▸北海道地学協働アワード2023（２次案内）を高等学校、特別支援学校等に配布
▸北海道子ども読書応援イベントinチカホを開催　(11/3予定)
▸本道を拠点とするプロスポーツチームの選手による「子どもの読書活動応援動画」配信 (10/6予定)

詳しくはこちらからアクセスしてください→

2　地域と学校の連携推進協議会（道央会場）

令和５年７月28日(金)に道央ブロック（主管：石狩教育局）において、オンラインで地域と学校の連携推進協議会を実施しました。

本協議会は、子どもたちの成長を支えていくために、「コミュニティ・スクール」の仕組みを活用し、地域と学校とが相互に連携・協働しながら一体となって「地域学校協働活動」を充実させる方法等について理解を深めることを目的として、道内４地域で実施しています。今年度は、道央ブロックが最初の実施となりました。

１　参加者　教育委員会職員、学校職員、学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター、社会教育関係者、振興局職員、市町村首長部局職員、幼稚園職員　等（計20名）

２　内　容

（1）　行政説明

説明者　北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課
地学協働推進係主査　横地　康恵

■　道の現状と課題を踏まえ、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動(地学協働)の重要性について、今後の展望などを説明しました。

道教委コミュニティ・スクール関係HP

（2）　実践発表

所属ごとのブレイクアウトルームを設け、実践発表から地学協働のヒントを得ました。

●　ルーム1

パネルトーク「地学協働を促すプラスアクション」

発表者　恵庭市立松恵小学校長　真野　智美

松恵小学校では、小規模校ならではの「地域との距離」を生かし、会議だけでなく日常の会話から連携を模索し、取組を進めたことなどの事例が発表されました。

松恵小学校HP

発表者　千歳市立千歳第二小学校教頭　大渕　　徹

千歳第二小学校では、地域コーディネーターが授業支援や放課後活動における地学協働を全面的にサポートしていることなどの事例が発表されました。

千歳第二小学校HP

●　ルーム2

パネルトーク「CS導入経緯(上ノ国高校)と地学協働活動の実際(岩内高校)」

発表者　北海道岩内高等学校長
（前上ノ国高等学校長）佐々木　雅康

上ノ国高校では、委員の人選や設立準備会議を教育局・町教委とともに進め、「地域全体で学校を支え、子どもを育てる」意識が高まったこと、岩内高校では、町の全面的な協力のもと、地域との連携をさらに強めることで地域とともにある学校を目指し、コミュニティ・スクールを運営していることなどの事例が発表されました。

岩内高校HP

上ノ国高校HP

●　ルーム3

パネルトーク「栗山町におけるコミュニティ・スクールの取組」

発表者　栗山町教育委員会社会教育課
社会教育グループ主査　　相川　貴行

コミュニティ・スクールにおける社会教育からのアプローチの実践や学校運営協議会において、小中一貫教育の具現化に向けた「小中連携委員会」と連動した町内小中学校4校が「目指す子ども像」を共有したこと。また、「栗山型教育」の具現化に向け、2つの仮説に基づいた、学校と地域の役割を明確にした体制の構築についてなど、説明がありました。

（3）　協議

「コミュニティ・スクールを形骸化させないために」をテーマに職種を混合したブレイクアウトルームで協議を行いました。協議の中では、「コミュニティ・スクールを機能させるには、地域住民の理解を一層促すことが重要である。」との意見や、「こうした話合いが重要。自分たちのまちでも関係者が集まる協議の場を設定したい。」という声がありました。

3 コーディネーターミーティングを開催

「北海道CLASSプロジェクト」は、高校と地域が協働する体制を構築し、地学協働活動をとおして、次世代を担う高校生の学びの充実と、地域住民が参画することによる地域創生を図るものです。

その要となるのが、両者をつなぐ「地域コーディネーター」の存在です。本プロジェクトでは、４校の研究指定校（推進校）に地域コーディネーターを配置しており、年に３回程度ミーティングを開催し、地学協働を推進する上での課題解決に向けた情報交流や研修等を行っています。

今号は、９月20日（水）に実施した今年度２回目となるミーティングの概要についてお伝えします。宮城県気仙沼市で生徒の「探究活動」のコーディネートをしている、一般社団法人まるオフィス代表理事の加藤拓馬さんを講師に講義・トークセッションで学びを深めました。

■ 第２回地域コーディネーターミーティングの概要（令和５年９月20日）

① 講義「高校の探究活動におけるコーディネーターの役割」

「コーディネーター」の基本について、**「通訳」**（地域と学校の意思疎通を促す役割）**「急がば『介せ』」**（頼む相手が受け取りやすい方法）**「相手の『不』**（不足や不満）**はどこか」**等のキーワードが示され、相手の立場に立ったコミュニケーションや地道な活動で関係性を構築する重要性を学びました。また、「学校と地域」「小中高の校種」等の**壁を越境**しながら学ぶことを仕掛けることができるのは、地域コーディネーターであり、こうした活動が生徒の学びはもとより、人の循環を生むことから、地域活性化にもつながるため、地学協働におけるコーディネーターの意義が改めて確認できました。

② トークセッション「コーディネートの実際」

コーディネーターとして実働している中での取組や悩み等について講師を交えて交流しました。「探究活動」においては、テーマが重要で、テーマ決定の過程で**「発散」**（アイディアをたくさん出すこと）と**「収束」**（出たアイディアをまとめること）を繰り返すのですが、生徒の主体性を確保するために、「収束」段階ではアドバイスしないなど説明がありました。先生方が敷いたレールの上を走る学習ではないため、生徒は迷走しながら自分で学び、１つの正解ではなく、みんなが納得できる**「納得解」**に向かう主体的な活動が重要で、そのために伴走していく関わり方が大切になると話していました。

☆お知らせ☆

コーディネーターと学校の関係構築は、地学協働を進める上で、最も重要な要素の一つです。「北海道CLASSプロジェクト」の３年間のまとめとして、コーディネーターと学校の関係や活動の成果報告を行う**「全道地学協働活動研究大会」を**11月16日（木）にオンラインで開催します。どなたでも御参加できますので、ぜひお申し込みください。

↑申込みはこちらの２次元コードから

4 ○●○子どもの読書活動推進コーナー○●○

学校図書館は、学校と地域全体で連携・協力し、組織的に環境整備や利活用の促進に取り組むことが大切です。今号は、後志管内と檜山管内の学校図書館における好事例を紹介します。

【後志管内】町職員の学校司書が運営する学校図書館（喜茂別町立喜茂別中学校）

達成状況が分かるように館内に掲示

学校司書による生徒の読書意欲を高める取組

喜茂別中学校では、町職員が学校司書を務めています。蔵書のデータベース化や図書館の整備だけではなく、生徒の読書意欲向上のために様々なイベントを行っています。左の写真は、生徒と教師が一緒に取り組む「みんなで1000冊!! 目指せ本倶登山※!!」という読書推進の企画です。（※本倶登山（ぽんくとさん）…倶知安町にある標高約1,000mの山の名称）

テーマ別の特設コーナーの設置

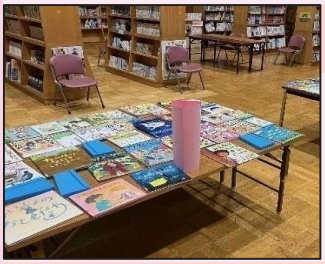
生徒の学びを支える学校図書館となるように、図書委員と協力しながらテーマ別に特設コーナーを設置しています。このテーマは時事や生徒の興味関心に合ったもの、授業に関わりのあるものとしています。

今後は、地域と連携したブックカフェなどのイベントも行う予定であり、まち全体で子どもたちの読書活動の推進に取り組んでいきます。

生徒の興味関心を引く「お肉・お魚」のコーナー、手前には動物や魚の模型もあります。

学校図書館の入口には防災月間に合わせて防災関連の本が並んでいます。

【檜山管内】地域と学校で支える児童の読書活動（奥尻町立青苗小学校）



道立図書館との連携

道立図書館の図書館活動支援事業「サポートブックス」を活用し、児童の読書活動推進に役立てています。前期は朝読・昼読ブックス（120冊）をホールに展示し貸し出しました。児童たちは興味のある本を自由に手に取り借りています。11月には、ブックフェスティバルを実施予定です。

地域連携と児童の委員会活動による読書活動の推進

読み聞かせ団体「おはなしの会うみいろ」と連携し、読み聞かせを実施するともに、町図書室から長期休業前に約100冊の本を借り、児童へ貸し出しました。

また、文化委員会では借りた本の分だけ水玉が増えていく「読書水族館」の取組や、児童による読み聞かせ、冬休みナンバーワンのおすすめ図書など、様々な読書活動推進の取組を実施しています。

題字の背景写真は、「北海道公式観光サイト『HOKKAIDO LOVE！』」（公益社団法人 北海道観光振興機構）のフォトライブラリーから御提供いただいております。

● 掲載サイト https://www.visit-hokkaido.jp/